

◇小学校教科用図書（「特別の教科 道徳」をのぞく）

平成30年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、教材の配列の工夫がされており、また、言語活動の充実を考えて作られている。</li> <li>・光村図書出版は、3年生以上の最初の説明文が2つの教材で配列されていて、学びが深められるようになっている。</li> </ul>
書写	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、正しい鉛筆の持ち方の写真や、毛筆と硬筆の関連を意識した掲載がある。</li> <li>・光村図書出版は、毛筆で学習したことを生かして硬筆で書くような構成がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も主体的に学習に取り組めるような工夫がある。</li> <li>・教育出版は、神奈川県に関する記載が多く、伊勢原浄水場についても掲載されている。</li> </ul>
地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2者とも、学習に関する地図資料が掲載されている。</li> <li>・帝国書院は、索引の項目や資料などの掲載が多く、調べ学習の助けとなる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、練習問題や解説の資料が充実している。</li> <li>・教育出版は、算数的な活動を軸とした問題が授業展開の基本に据えられている。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、見通しをもって観察実験を行ったり、結果を整理し考察したりできるような工夫がされている。</li> <li>・啓林館は、日常経験などを確認してから単元の学習に入るように工夫されている。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、子どもの関心意欲を高める工夫がされている。</li> <li>・東京書籍は、活動ごとに安全面の注意点などがわかりやすく示されている。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2者とも、系統的に題材が配置されている。</li> <li>・教育出版は、写真やイラストが豊富で、基礎的・基本的な内容を繰り返し学習できるよう工夫されている。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2者とも、1つの題材に対して多様な表現方法が提示されている。</li> <li>・日本文教出版は、模倣や疑似体験を通して鑑賞を行う取組が掲載されている。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2者とも、学習を見通せるように工夫されている。</li> <li>・開隆堂は、スモールステップで実習や製作の解説がされている。</li> </ul>
保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの発行者も、関心をもって取り組める工夫や、課題解決的な学習の流れを考えた構成の工夫がある。</li> <li>・学研教育みらいは、学習内容を理解しやすいように、写真やイラストが掲載されている。</li> </ul>
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の光村図書出版は、読み物教材がよい。また、学習の手引きがわかりやすい。これまでの使用実績から、学びを深めるという点でも工夫されている。また、書写も同じ光村図書出版が使いやすい。</li> <li>・算数はどの発行者も練習問題が豊富である。教育出版は、算数的な活動が単元の軸にあるので、それを取り入れて学習をすすめている。</li> <li>・社会は、教育出版が、神奈川県に関する記述が多く、子どもたちにとって身近で興味関心をもちやすい。</li> <li>・理科は、どの教科書も子どもが問題解決していく流れで学習ができるように示されている。啓林館は、別冊に「思い出してみよう」があり、既習事項や日常の経験を確認してから学習に入れるようになっている。</li> <li>・図工や、音楽、生活、家庭、保健なども、どの教科書もよく工夫されている。現在使用している教科書についても、それぞれ学習の流れがわかりやすく示されていたり、写真やイラストが見やすかったりなどの工夫があつてよい。</li> <li>・どの教科書もそれぞれに特長があるが、どの種目についても、現在使用している教科書で大きな問題となる表記等はなかった。このまま同じ教科書を使って学習できるほうが、教員にとっても、児童にとってもよい。</li> <li>・現在使用している教科書は、どの種目についてもよく工夫されており、伊勢原市の児童にあった教科書が選ばれていると思う。教科書そのものが変わっていないので、これまでの教材研究を生かすことができるという点からも、同じ教科書を使って学習できることが望ましい。</li> <li>・これまでの教材研究を生かして学習をすすめながら、新しい学習指導要領の全面実施に備えて準備するという点からも、同じ教科書を使うことがよい。</li> </ul>	

◇特別の教科 道徳

平成30年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的に考えられるよう、いじめ問題、生命尊重については、複数の教材をまとめたユニットの形式となっている。</li> <li>・各学年に2か所、役割演技や体験学習を通して議論する「ACTION!」のページが設けられ、体験的な学習を通して考えを深める工夫がされている。</li> </ul>
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の最後に「学びに向かうために」の欄があり、見方を広げたり考えを深めたりし、大事なことを自分自身のこととして見つめられるような問いが設けられている。</li> <li>・道徳的価値を深めるために「心の扉」のページが設けられ、書き込みができるようになっている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の冒頭に、教材を通してどんなことを考えていくのか、学習のねらいを明確にし、意識づけをするために導入としての問いが示されている。</li> <li>・いじめの問題を直接的に扱っている教材は、特定の指導時期に集中しないように配置されている。</li> </ul>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の最後の「学びのテーマ」の中で、より考えが深まるよう、考える観点が設けられており、課題の設定や道徳的価値の理解などを意識した問いが設定されている。</li> <li>・いじめの問題の解決に結びつく教材を、学年の前半に配当し、学級づくりや友だちとの関係づくりに生かせるよう配慮されている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊「道徳ノート」は、すべての教材に1ページずつ対応し、内容に沿った発問が記載されており、友だちや保護者の意見を記入する欄が設けられている。</li> <li>・いじめの防止の教材とコラムを組み合わせたユニットを、1年生は3か所、2、3年生は2か所に配置している。</li> </ul>
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習の道筋や役割演技などを通して体験的な学習を行うページ「深めよう」が示されている。</li> <li>・自分の成長を感じたり、これからの生き方を考えたりできるよう、巻頭に「マイプロフィール」、巻末に「心の四季」のページが設けられている。</li> </ul>
廣済堂あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊「中学生の道徳ノート」は、22の内容項目に対応するページで構成され、自分の考えを書く欄や、道徳的価値の理解を促すための資料が掲載されている。</li> <li>・教材の最後に「考える・話し合う」の欄があり、多面的・多角的に考えられるような問いが設けられている。</li> </ul>
日本教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発達の段階をふまえ、1年生、2年生、3年生それぞれの教科書にストーリーに連続性を持たせた教材が掲載されている。</li> <li>・教材の最後に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」の欄が設けられ、生徒の多様な感じ方や考え方を引き出すよう工夫された発問例が設定されている。</li> </ul>
その他の主な意見	
<p>・教科書のサイズで一番小さいのは、B5版の教育出版、光村図書出版、日本文教出版、日本教科書。それより少し大きいのがAB版の東京書籍、学校図書、廣済堂あかつき。一番大きいのはA4版の学研教育みらいであるが、中学校のほとんどの教科書はB5版またはAB版であり、A4版は少し大きすぎる。</p> <p>・別冊がある発行者は日本文教出版、廣済堂あかつきである。日本文教出版のノートは教材ごとになっており、授業に合わせて使いやすい。廣済堂あかつきのノートは、内容項目ごとになっているので、テーマごとにノートを扱うことになる。ノートがなくても、これまでも教員が工夫してワークシートを作成し活用しており、生徒の実態に合わせて変えた方がいいこともある。別冊がないほうが自由に授業内容を工夫することができて、使いやすいこともある。</p> <p>・別冊ノートには問いが書いてあり、自分の考えを書けるようになっている。教科書や別冊に書いてある問いをそのまま授業に使うことはあまりない。日本文教出版のノートは、問いなどを自由に書き込める欄があり、工夫しやすい。東京書籍や学校図書は、ノートがなくても書き込める欄が多くあり、活用しやすいと感じた。</p> <p>・どの発行者もなんらかの形で振り返りのページや自己評価のページを設けている。その中で、廣済堂あかつきは、22の内容項目それぞれに対して、5段階の評価をしたり、日本教科書は、22の内容項目それぞれに、「意味はわかるけれど、大切さを感じない」などの4段階の評価をする形となっていたりしているところが気になった。内容項目ごとにできたかできなかったかという自己評価をするのではなく、生徒の心のいろいろな葛藤や自己の生き方などについて、考えを深めるような振り返りのほうがよい。</p> <p>・道徳は、どのようなことを学習する教科なのか、ということがわかりやすく最初に書いてあったのが、学研教育みらいであった。また、内容については、難しいものが多いが、スポーツなど、生徒が興味・関心を持てるような教材がよいと思う。</p> <p>・授業に役立つ問いについて、学研教育みらいは1つ、東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、日本教科書は、教材の後ろに2つから3つ、廣済堂あかつきは3つから5つ、光村図書出版は、学びのテーマというページに5つ程度の問いがある。東京書籍は、問いの内容がシンプルでわかりやすい。学校図書は活動の流れがわかりやすい。光村図書出版や廣済堂あかつきは、問いの数が多く、細かすぎる。</p> <p>・教科書展示会で教科書を見た教員の意見として、多くあったのは東京書籍と日本文教出版で、東京書籍は紙面が見やすい、挿絵や題材、写真などが親しみやすい、読む量が適切などの意見、日本文教出版は、テーマがわかりやすい、ノートが使いやすく振り返りや評価に活用しやすいなどの意見があった。そのほか、廣済堂あかつきは、別冊ノートの内容が充実している、光村図書は文章量が充実しているなどの意見があった。教員の見方として、50分の授業を意識していると思う。時間内で、導入、教材を読む、話し合う、振り返りをするという活動がおさまることを考えている。</p> <p>・「考え、議論する」ということが学習指導要領のキーワードとなっており、どの発行者も生徒が考えたり、話し合ったりすることに結びつくような工夫があった。東京書籍は、巻頭に話合いの流れが示され、短い文章を読んで実際に話合いに取り組めるページがあり、取り組みやすい。日本文教出版や、教育出版、学研教育みらい、日本教科書はイラストや写真で学ぶことや学び方が示されている。学校図書や光村図書はイラストで、廣済堂あかつきは文章で対話することや考えることについて示している。生徒が道徳科に対する関心を高め、考えたり話し合ったりしようとする態度を高めるのに役立つ。</p> <p>・いじめに関する内容をどの発行者も取り上げている。その中で、東京書籍、光村図書出版は、複数の教材をユニットとして合わせ、考えを深められるように工夫されているところがよい。日本文教出版は、コラムとの組み合わせで深めるようになっていてよい。</p> <p>・子どもが読んだときわかりやすいと感じたのが、学研教育みらい、光村図書出版、東京書籍。目次がわかりやすいのは日本文教出版。絵や写真があり、内容も子どもに読ませたいと思ったのは、学研教育みらい、学校図書、教育出版、東京書籍、日本文教出版。日本教科書、廣済堂あかつき、教育出版は、文章が多いと感じた。</p> <p>・体験的な学習について、役割演技ができるようなページが設けられている発行者がある。東京書籍、教育出版、日本文教出版、学研教育みらいにそのようなページがあり、役割演技を通して考えを深められるように、絵や写真、書き込みのできるスペースなどが工夫されている。中学生でも、このような体験を通して学習できるのはよい。</p> <p>・どの発行者も35教材程度で構成されており、年間35時間を意識して構成されている。それにプラスしてコラムなどを入れているところもある。物語だけでなく、意見文や実話、詩、漫画など多様な資料もある。資料が多すぎず少なすぎないものがよいと思う。光村図書出版や学校図書はページ数が多いと思う。また、廣済堂あかつきは別冊ノートにも資料がかなり充実しており、すべて消化するのが難しいと思う。</p>	